西洋古典資料保存のための
実務研修をはじめます。

一橋大学社会科学古典資料センターでは、2016年度より
西洋古典資料保存のための実務研修制度をはじめます。

1 どんな研修？

一橋大学社会科学古典資料センターに付設された保存修復工房で、実務に参加しながら**西洋古典資料の保存修復**にかんする実践的なノウハウを習得します。この研修によって所属機関や地域で西洋古典資料の保存をリードする**中核的な人材の育成**を目指します。

社会科学古典資料センターって
どんなところ？

約8万冊の西洋古典資料を
所蔵する専門研究図書館です。
西洋古典資料保存講習会など各種講習会を開催しているほか、付設の保存修復工房では20年にわたって資料の保存対策を続けています。

2 カリキュラムは？

修復や製本を専門とする保存修復工房の4名のスタッフが、資料の**劣化調査、修復処置、保存容器の作成**等について実地で指導します。そのほか、附属図書館での研修や他機関の見学、学外講師による指導も予定しています。

詳しくは裏面をご覧ください！

3 どんな条件で受講できるの？

対象者：大学・研究機関等で図書館業務に従事する職員
期間：　3ヶ月から6ヵ月程度
（短期も応相談）
経費等：研修費及び教材費は無料
給与、諸手当、旅費、住居等については協議の上決定

4 メリットは？

各所蔵館で否応なく進む、また処置を外注した場合大きな予算を必要とする古典資料の劣化にたいして、**館内で主体的に対処する**術を手に入れることができます。

5 もっと詳しく知りたいときは？

まずは**下記まで**お問い合わせください。

皆さまのご参加をお待ちしています！

問合せ先：一橋大学附属図書館
lib-dm@dm.hit-u.ac.jp
042-580-8223
国立大学法人 一橋大学 HITOTSUBASHI UNIVERSITY

今回のプログラムについて、工房について、保存修復の基本方針、材料について（一日）

→

劣化調査・保存カルテの説明（半日）

→

研修内容・目的			進行						
劣化調査	・資料の構造・状態を把握しカルテに記述する ・劣化状況に応じて正しい処方を導く	実習開始	既にカルテ作成済みの資料を用いてトレーニング（基本的なもの）	→	既にカルテ作成済みの資料を用いてトレーニング（様々なタイプのもの）	→	一般貴重書の資料を調査	→	最終チェック（一連の作業を通して一人で行う）
	一般貴重書に含まれる様々な形態の資料の調査								
保存容器	・容器の種類を知る ・構造・材料を知る ・作成方法を知る ・適切な容器の選択		一般貴重書で使用する容器の作成	箱(留め具・差し込み　)/ジャケット(厚・薄・羽付き)/カイルラッパー/本文キャップ/ブックスツール/封筒フォルダー/ソフトフォルダー/中性紙挿入/包装/その他				→	
	一般貴重書で使用する保存容器を作成								
修理	・修理の材料を知る ・修理の方法を知る ・劣化状態に応じた修理方法の判断		ダミーでトレーニング	→		一般貴重書の資料を修理	→		
	ダミーでトレーニング後、一般貴重書の修理								
定期作業		毎週月曜・火曜　低温処置関係作業　　毎月一回　書庫清掃							↓
追加実習		クータ・見返し修理（1～2回）/ 保革作業　油、アクリルポリマー含む（2回）/ 保存製本（1回）							
追加講義		学外見学・実習 / 書庫内環境についての説明と虫害トラップ調査							
3か月コース		10週間							2週間
6か月コース		5か月							1か月

週間プログラム

	月	火	水	木	金
AM	低温処置	低温処置	調査＋修理	調査＋容器	調査＋容器
PM	修理	調査			

実習カリキュラムでは、劣化調査、保存容器作成、修理の3分野を同時進行で10週間（6ヵ月コースは20週間）学び、最終チェックを経て、資料の状態確認から対策まで一貫して行えるようになることを目指します。

【劣化調査】
劣化調査は、資料の製本構造・劣化状態を把握し、どのような保存措置が必要とされているかを知るために行う基本調査です。資料一点一点についての詳細情報を記録する保存カルテを作成します。

【保存容器作成】
中性紙ボードなどを用いて専用の保存容器を作成します。資料一点一点のサイズや状態に応じて各種容器を作り分けることで、よりきめ細かな資料の維持管理が可能になります。

【修理】
資料の破損状態などに応じて、和紙や生麩糊などを用いて修理を行います。破損個所だけでなく、製本構造全体への目配りが必要な高度な作業です。

国立大学法人 一橋大学 HITOTSUBASHI UNIVERSITY